

大阪 ヘビー中心にタイト感残り堅調様子見

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は堅調様子見。ヘビー類を中心にタイト感が残りつつも、海外含めた輸出市場の停滞や東京製鉄の様子見対応によって実勢圏を突き上げるほどの力強さは感じさせにくい展開にあるようだ。同地区電炉のH2実勢値は5万~5万1500円、新断バラ同5万3000~5万4000円、鋼ドライ粉バラ同4万6500~4万7500円見当で推移している。

新断などの上級品種については、電炉需要の低迷が目立ちつつも、ヘビー類は電炉側から想定以上の入荷難を漏らす動きにあり、今週末からも3連休を控え、タイト化の残る展開となっている。連休中の操業度合いは異なるにせよ、電炉筋によっては入荷促進に向けて、品種を限定しての水面下含めた引き合い継続を余儀なくされそうとあって、「当初は連休まで持ちこたえられるかどうかだったが、発生の回復ペースが思っ

た以上に鈍く、連休後も在庫回復を図らなければならない点で、品種によっては堅調感を保つ動きにあるのでは」(ヤード業者筋)と見る向きもある。

ただ、新規輸出商談では韓国の一部ミルで従来と同じ価格帯での引き合いも聞かれるが、トルコ向け輸出価格の急落や製品環境などに圧迫され、ベトナムのアイデア価格は国内だけでなく、韓国の商談価格を下回る水準にある。また、市況牽引役の東京製鉄に値動きが見られなくなったことで、市中でも先行きに対する警戒を持ち合わせる声も少なくない。複数の電炉筋からも先々の不透明性を考慮しながら、必要量以上を積極的に手当てしていく様子にないため、「連休要因が下支えしているが、海外市場を踏まえれば、その影響を受けやすくなってくるのでは」(商社)と慎重な構えを見せている。

東鉄・大和リース・ナベショー 3社協定を21日に締結 サンドイッチパネルを再資源化

東京製鉄(東京都千代田区、西本利一社長)、ナベショー(大阪府中央区、渡邊泰博会長)、大和リース(大阪府中央区、北哲弥社長)、は使用済みのリース用建築部材に対する再資源化の枠組みを確立し、3社協定の「建材アップサイクルコンソーシアム(以下、建材アップリサイクル)」を21日に締結する。

建材アップリサイクルは、仮設建物等の外壁に使用される使用済みサンドイッチパネル(以下、サンドイッチパネル)の材料利用を軸とした再資源化スキーム。各主体の役割は、大和リースがサンドイッチパネルを排出し、ナベショーが物流・加工処理の管理を担い、東京製鉄が鉄源原料として活用する。鋼材を大和リースが購入し自社工場で製品化することで、CO₂排出量削減と材料率向上を図る枠組みだ。

大和リースでは、形状などの要因で同社リユース規格に合致しないサンドイッチパネルは産業廃棄物として熱源処理していたが、大和ハウスグループ全体が環境負荷軽減に取り組むなかで、ナベショーらと連携し建材アップリサイクルに着目。20年8月に3社で試験運用

を開始し、21年5月より本格稼働を開始した。

現在、大和リースでは大都市圏近郊の4拠点(栃木二宮、千葉長南、滋賀水口、福岡デポ)のサンドイッチパネル(1種類)を対象に東京製鉄(宇都宮、田原、九州工場)で再資源化し、21年度通期で同社サンドイッチパネル総排出量(38万枚、約450ト)の49%を材料回収を実現している。

今後、大和リースは2026年度のGHG(温室効果ガス)86%削減(15年度比)の達成に向け、建材アップリサイクル推進に注力。23年度内にサンドイッチパネルの対象品種を4種、排出拠点を10箇所拡張し、材料回収率の更なる向上に取り組んでいる。



使用済みサンドイッチパネル(左)とプレス加工後(右)

関西鉄源協議会 8月鉄スクラップ扱い数量は8ヶ月連続の前年割れ

(大阪) 関西鉄源協議会(黒川友二代表幹事・扶和メタル会長)は8月の大阪府下鉄スクラップ業者(会員分)の扱い量を取りまとめ発表し、ヤード入荷とメーカー直送を合わせた取扱い数量は前年同月比10.4%(1万314ト)減の8万8979トと8ヶ月連続で前年を下回り、単月でも丸1年ぶりの9万ト割れとなった。

内訳は新断、ドライ粉、ヘビー合わせたヤード入荷量が前年同月比2.6%(1,696ト)減の6万3305トと8月としては3年連続で6万ト台にとどまり、今年では1月(6万2003ト)に次ぐ低水準となった。また、メーカー

直送も同比25.1%(8,618ト)減の2万5674トと4ヶ月ぶりに3万トを下回った。品種別では新断が前年同月比10.0%(1,092ト)増の1万2012トとなったが、ドライ粉は同比3.6%(185ト)減、ヘビーも同比5.3%(2,603ト)減の4万6314トへと落ち込んだ。今月は営業日数の関係上、8月に比べれば増加へ向かうが、それでも解体案件を中心に停滞感が続いている状態には変わりなく、「昨年が良すぎたというのもあるが、昨年に比べれば、明らかに発生量は落ちている」(ヤード業者筋)との声が多く聞かれる。